

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
2	川崎市立 四谷 小学校	島田 道雄

学校教育目標	今年度の重点目標
よく考え、工夫する子 つよく明るく元気な子 やさしく思いやりのある子	地震等の災害を想定した、防災教育の推進(避難訓練を中心とした) 国際教室での日本語指導を含む、個別最適な学びに向けた支援教育の充実 子どもたち自身が節目を意識できる、周年行事に関する取組の充実

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 教育環境の改善	子どもたちの学習に役立てるため、樹木などの植栽を整えている。引き続き、整備するとともに、雑草等の伐採、害虫駆除等を丁寧に行っていく。	樹木・花の整備が進んでいる。また、花壇の整備には、地域の方の協力も得られた。周年行事と関連させ、梨の栽培にも力を入れることができた。	川崎の特産である梨の栽培なども含め、植物の栽培を主とした花壇の整備等については、引き続き地域の方の協力も得ながら進める。
2 児童の安全対策	交通量の多さや自転車との交錯の危険性から登下校時の校門での見守り、声掛けを継続している。朝会等での注意喚起も定期的に行っている。	見守り・声かけのため、大きな事故は起こっていない。さらに、登下校のみでなく、放課後も安全に過ごすことができるように、声掛けをする必要がある。	地域のボランティアやPTAの力も借りながら、引き続き見守りを強化していく。また、児童自ら安全への意識を高められるように声掛けをしていく。
3 相談できる雰囲気づくり	教職員が管理職に、児童が教職員に相談しやすくなるような、風通しの良い雰囲気作りを常に心がけるように、互いに声掛けをしていく。	管理職も率先して笑顔で接することにより、子どもたちにも相談できる雰囲気を伝えていった。巡回カウンセラーの活用をさらに充実させる必要がある。	巡回カウンセラーを活用する。児童はもちろん、保護者や教職員に対するカウンセリングを通して、子どもたちへの良い影響につなげていく。
4 楽しく学習に取り組むことができる学校づくり	校内研究として、周年行事の発表の場とも関連させながら、児童が自分から思いや考えをしっかりと表現できるような学習場面を設定する。	言語による表現力の育成は、話す・聞くの活動において、ある程度達成できた。読む・書く活動の充実や活動を系統立てることが今後の課題となる。	それぞれの取り組みを、学校全体に広げていくことが大切である。研究の場面はもちろんのこと、各種会議等の場面を活用し、情報共有していく。
5 落ち着いた中での学校生活の創造	学校生活の決まりや放課後の過ごし方を含めた約束を各学年・学級で確認し、よくできている例を紹介しあう。また、努力している児童を褒め、励ます。	児童はコロナによる自粛も経験し、本人も無意識のうちにストレスを抱えてしまうケースが見受けられる。引き続き落ち着いた接し方を心がける。	校長自身が登下校時には校門に立ち、児童とあいさつを交わした声掛け継続していく。教員相互の声掛けにも配慮し、落ち着いた接し方を心がける。
6 基礎・基本が身につく指導法の工夫改善	指導法工夫改善の加配教員と担任による少人数指導や支援教育C○・国際教室担当教員による取り出しの指導を継続して行っていく。	取り出しの指導や入り込みの指導により、子どもたちの力も徐々についている。個別の声掛けや指導により、今後も基礎・基本の充実を図っていく。	引き続き子どもの特性をしっかりとみとりながら、加配教員や国際教室担当教員、支援教育C○による指導を中心に、工夫改善を図っていく。
7 児童が充実感を得ることのできる学校づくり	創立70周年記念式典などの場面も活用し、児童の主体性を育む行事に取り組む。また、GIGA端末を活用した学習の工夫にも取り組んだ。	周年行事を子どもたちが節目を意識できる表現の場としてとらえ、指導にあたった。高学年を中心に、取り組みに対する充実感を得られたようだ。	表現活動の成果を踏まえ、次年度も言語力の育成を目指していく。GIGA端末を活用した取り組みの場面も、積極的に設定していく。
8 家庭や地域への情報提供を含めた情報の共有	学校だよりやメール配信等を利用し、学校の考えや取り組みなどを積極的に配信していく。PTA広報誌の取材等にも協力する。	学校だより等で学校の様子は伝えてきた。学校公開や授業参観も行えるようになってきたこともあり、情報提供の場として活用した。	コロナ前のやり方にとらわれることなく、ホームページや学校説明会・報告会や運営会議の場でも、積極的に情報提供を行っていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
基本的な学校の取り組みに関しては、評価している。新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、学校の行事についても、少しずつ変化が出てきている。周年行事の子どもたちの表現は、とても良かったと思う。今後も現状にあった形を考慮しながら、引き続き子どもたちの教育に力を入れてほしい。また、授業を参観することにより、GIGA端末の活用が進んでいることもよくわかった。活用時のマナーも含めて、継続して指導してほしい。	年間を通して、学校行事もコロナ前を参考にしつつも、工夫・改善をしながら実施した。周年行事にあわせて、子どもたちの表現力を高める活動にも力を入れてきた。地域の方々によるご指導なども取り入れながら学習を進め、ある程度の成果があらわれたと思う。半面、コロナ禍において子ども同士のかかわりが希薄になってしまった印象を受けていたが、5類移行後もうまく友達と関わらずにストレスを感じている子どもも見受けられる。今後も子どもたちの気持ちに寄り添った指導を続けながら、本校の学校教育目標である「よく考え工夫する子」「つよく明るく元気な子」「やさしく思いやりのある子」の具現化に向けて、学校運営を進めていく。